

## カンボジア・モリンガ農園プロジェクト

農業×環境×就労支援で子どもたちの未来を！



## Concept

経済格差と教育機会の不均等が課題とされるカンボジアにおいて、JACE NGO は「持続可能な支援の循環」を目指し、モリンガ栽培による地域支援プロジェクトを展開しています。

現地では、学校に通えない子どもや若者が多く、労働に従事せざるを得ないケースも少なくありません。本プロジェクトは、そうした貧困層の若年層に対して農作業を通じた就労機会を提供するだけでなく、栽培作物であるモリンガの環境的価値にも着目し、脱炭素社会への一歩としても期待されています。

就労、教育、環境。この三つを軸に、JACE NGO では地域に根差した活動を行っています。



## 活動の背景

カンボジアの農村部では、家計を支えるために10代で労働に出る子どもも多く、就学率の低下やスキル習得の機会の喪失が社会的な課題となっています。また、近年の気候変動の影響もあり、農業そのものの持続性も脅かされています。

こうした背景のもと、JACE NGOは「収入を得る手段」としての農業に再注目。とくに生産性が高く、栄養価にも優れるモリンガに着目し、就労支援と環境保全の両立を目指した取り組みをスタートしました。



## 活動内容

モリンガ農園では、10代の若者や家庭に十分な収入がない子どもたちを対象に、種まき・水やり・収穫・出荷までを一貫して体験できる農作業の機会を提供しています。

2024年、現地の14歳の少年が収穫したモリンガの葉を初めて販売し、「自分で働いて得たお金を母に渡せた」と話してくれました。家族の誇りとなる体験が、彼の人生を大きく動かすきっかけになったといいます。

また、農園での活動にとどまらず、モリンガの種を希望する家庭に配布することで、自宅での栽培も支援。農園が買い取る仕組みとすることで、地域全体の所得向上にもつなげています。

さらに、モリンガのもつCO<sub>2</sub>吸収能力の高さにも注目し、環境保全型の農業モデルとして位置づけることで、地域にとっての新しい価値創出を図っています。



## 政府との連携

JACE NGO では、現地自治体との連携も進めています。農業省や環境省など関連部局との情報共有を通じて、モリンガの持つ環境価値や雇用創出の意義を政策面からも支える基盤づくりを行っています。

2023年には、プノンペン郊外に新設された農業研修センターにおいて、自治体職員との共同セミナーを開催。モリンガの育成技術や加工品開発の可能性について専門家と議論を重ねました。

また、将来的には学校教育と連動し、職業教育の一環としてモリンガ栽培を導入する構想も進行中です。すでに一部の地域では、教員が研修に参加し、農園での体験活動を授業に取り入れる準備も始まっています。



## 今後の展望

JACE NGO では、今後さらに地域の学校・行政・民間と連携し、子どもたちの「学びと働く」を同時に支えるモデルの確立を目指しています。モリンガを通じて得られる経済的自立の道筋と、気候変動に立ち向かう環境教育が両立する仕組みづくりに取り組んでいきます。

これからも、現地に根ざした小さな実践を積み重ねながら、持続可能な未来を地域とともに育てていきます。

